

指定管理の選定手続にかかる苦情処理手続について

○概要

指定管理者の選定手続に瑕疵があった場合に、当該選定手続において選定されなかった者から手続に関する苦情の申立を受け付ける制度を新たに創設する。

手続にあたっては、第三者委員会を設置の上、その瑕疵について調査を行い、選定手続が適正であったか否かについて評価を行う。適正でなかったと判断された場合には、再度選定をやり直すなどの決定を行うもの。

○目的

指定管理者の選定に係る公平性を確保するため。

○対象となる手続

公募による選定委員会の選定手続

（非公募の場合（PFIなどで選定された者を非公募で選定する場合も含む）は除く。）

○申立てができる者

公募へ参加した結果、選定されなかった者

○申立ての要件

- （１）選定手続に瑕疵があり、その内容を申立者が説明できること（選定手続に瑕疵があったことを説明できず、選定されなかった理由を知りたいなどの場合は対象外）
- （２）期限内に申し立てを行うこと（原則１０日とするが、正当な理由があればこの限りでない。）

○選定手続に瑕疵がある場合の事例

- ・ 募集要項と異なる選定手続がおこなわれた。
- ・ 選定された者の提案に不正や虚偽の内容があった。
- ・ 募集要項以外の内容で全参加者に伝えられるべき情報が一部の者にしか伝えられていなかった。 等

○苦情処理手続の流れ

別紙のとおり